

0831-160401-1

# OM貯湯槽

取扱説明書

お客様用

- このたびはOM貯湯槽をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
- この取扱説明書をよくお読みになって、正しくご使用ください。なお、別売品の取扱説明書がある場合は、必ずそちらも併せてお読みください。
- この取扱説明書は何時でもご覧になれるところに大切に保管し、万一分からないところがあればもう一度読み直してください。

■EST-S30F-OM



# もくじ

	ページ
安全に関するご注意	1
しくみ	6
機器の構成	7
各部の名称	8
ご使用方法	9
凍結予防について	10
長期間お湯を使用しないとき	11
断水したとき・停電したとき	11
日常の点検	12
お手入れの方法	13
定期点検のおすすめ	15
故障かなと思ったら	16
保証とアフターサービス	17
仕 様	18
お問い合わせ先（点検・修理・撤去・相談など）	巻末

# 安全に関するご注意

## 重要情報


本機をより安全に、安心してご使用いただくための重要な情報をまとめています。ご使用前に必ずお読みください。

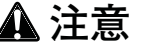
### 【1】ご使用上の警告


本機をお使いになる場合、感電・やけど・天災・人災に十分注意してご使用ください。

### 【2】安全情報の表示説明

この取扱説明書では、安全に関する注意および内容を下記のシンボルマークで表示しています。いずれの情報も重要な内容を記載していますので、必ずお守りください。

 **警告** 取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険の状態が生じることが想定される場合。

 **注意** 取扱いを誤った場合に、使用者が軽症を負うか、または、物的損害のみが発生する危険の状態が生じることが想定される場合。

 **留意** 製品の性能または運転・維持管理について、特に知っておいていただきたい事項や操作を説明しています。

図記号	図記号の意味	図記号	図記号の意味	図記号	図記号の意味	図記号	図記号の意味
	禁止指示に従う		アース工事実施		やけど注意		高温注意
	指示に従う		分解禁止		濡れ手禁止		電源プラグをコンセントから抜く

本機を安全に正しくお使いいただくために、下記の事項を特に注意してください。

## 【1】感電防止

### ⚠ 警告

濡れた手で電源プラグを操作しないでください。  
感電する恐れがあります。



## 【2】台風前後や地震後の取付確認

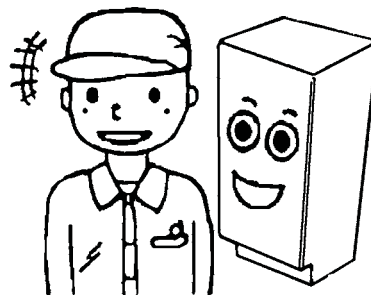
### ⚠ 警告

台風の前後や地震の後には、必ず貯湯槽の傾きや固定用ボルト等の破損やゆるみがないか確認してください。  
そのまま放置すると倒れる恐れがあります。

## 【3】据え付け

### ⚠ 警告

据え付けは販売店または工事店に依頼してください。  
ご自分で据付工事をされ不備があると、火災・感電・水漏れの原因になります。



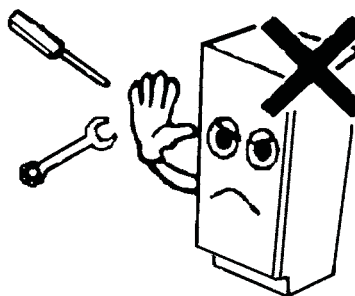
## 【4】機器・部品等の取り扱い

### ⚠ 警告

電源コード、電源プラグの加工をしないでください。また束ねる、曲げる、引っ張る、物を載せる、衝撃を与えるなど無理な力を加えないでください。感電、ショート、火災の原因になります。

### ⚠ 警告

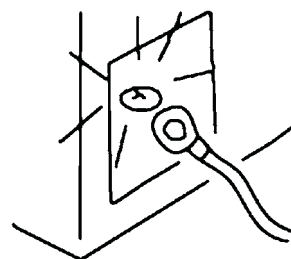
お客さまご自身では絶対に分解したり、修理・改造は行わないでください。思わぬ事故や故障の原因となります。



## 【5】アースする

### ⚠ 警告

必ずアースしてください。機器が故障した場合、感電の原因になります。アースがされていない場合は、販売店または、弊社窓口にご相談ください。  
また、アース線は、ガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続しないでください。



## 【6】熱媒の取り扱い

### ⚠ 警告

熱媒は幼児の手が届かないところに保存してください。  
万一飲んでしまった場合はすぐに吐かせ、ただちに医師の診断を受けてください。

### ⚠ 注意

熱媒は弊社指定品を使用し、7年に一度は交換してください。水を入れたり指定品以外のものや、同じ熱媒を8年以上使用すると凍結や錆が発生し、性能低下と機器の故障の原因になります。交換の際は、自ら行わず販売店へご相談ください。

炎症ややけどする恐れがあります。



## 【7】やけど予防

### ⚠ 警告

給湯やシャワーを使用するときや、入浴するときには必ず手で湯加減を確かめてください。使用中（特にシャワー使用时）は給湯回路の切り替えをしないでください。突然熱湯（60℃を超える湯）が出てやけどをしたり、冷水が出てびっくりすることがあります。

特に小さなお子様には注意してください。

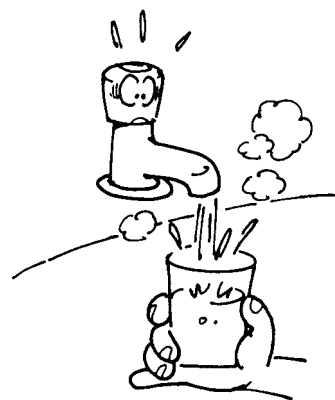


## 【8】飲用する際の注意

### ⚠ 注意

長時間のご使用により、タンク内に水アカがたまったり配管材料の劣化により、水質が変わることがあります。飲用される場合は次の点に注意し、必ず一度やかんなどで沸騰させてからにしてください。

- 必ず水道水を使用してください。
- 熱いお湯が出てくるまでの水（配管内にたまっていた水）は雑用水としてお使いください。
- 固形物や変色・にごり・悪臭などがあった場合は、飲用せずに、ただちに点検の依頼を行ってください。



## 【9】長時間使用しない場合

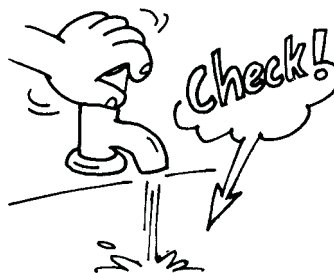
### ⚠ 注意

1週間以上使用しない場合は、水質が変化していることがあります。再使用する時は最初に300L程度の湯を流し、水質を確認（きれいであること）してから使用してください。

1ヶ月以上使用しない場合は、電源プラグを抜き貯湯槽内の水を排水し、太陽集熱回路はすべての熱媒を抜いてください。

（これらの作業は特殊作業になりますので、必ず販売店にお問い合わせください。）排水しないと水質が変わることがあります。また冬期は凍結して機器が破損することがあります。

（P11参照）



## 【10】凍結防止

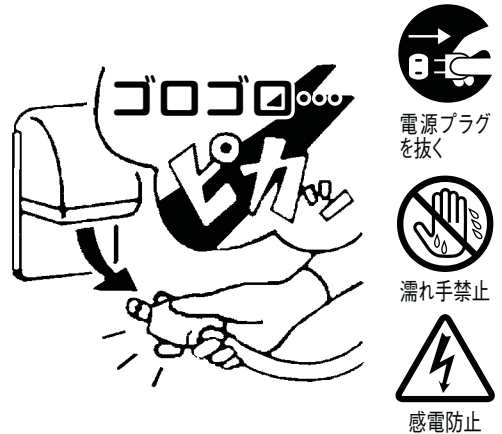
### ▲注意

外気温度が0℃以下になるような場合に給水・給湯回路が凍結し、本体や配管が破損することがあります。水抜きや凍結防止ヒータなどの対策を行ってください。(P9 参照)  
凍結すると機器が破損したり配管が破裂し、やけどや水漏れをすることがあります。

## 【11】雷発生時の処置

### ▲注意

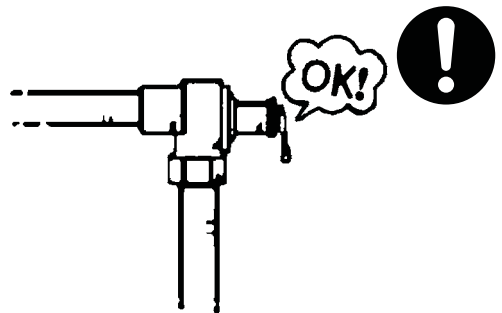
雷により、電子部品を損傷することがあります。近くで雷が発生した場合は、電源プラグを抜いてください。



## 【12】逃し弁の点検

### ▲注意

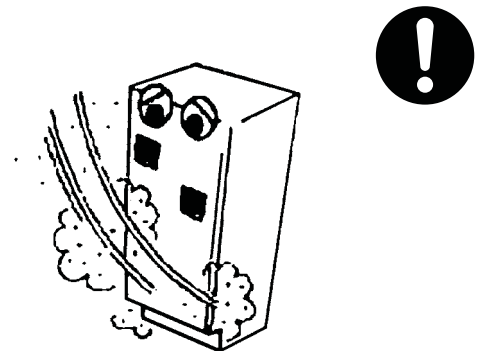
逃し弁の点検を行ってください。(年に2～3回以上)  
点検しないと貯湯槽や配管が破損したり、逃し弁から水漏れしたりすることがあります。  
排水口から出る水(お湯)に触れないでください。排水口から熱湯が出る恐れがあります。



## 【13】前板・操作窓を閉じる

### ▲注意

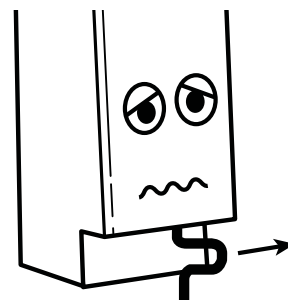
前板・操作窓は閉じておいてください。開けておくと雨水やゴミが入り、漏電や感電することがあります。



## 【14】配管に無理な力が加わっていないかを確認

### ▲注意

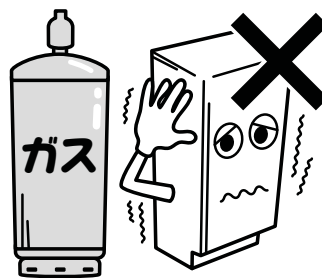
配管が破裂して、やけどや水漏れのおそれがあります。また配管が変形して、性能低下や機器故障の原因になります。



## 【15】 設置場所の確認

### ▲注意

可燃性ガスや引火物の近くに、設置されていないことを確認してください。発火や火災の原因になります。



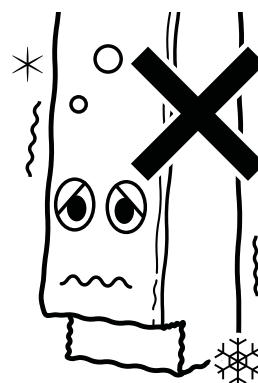
## 【16】 設置地域の確認

### ▲注意

最低気温が $-15^{\circ}\text{C}$ より低い寒冷地へは、設置しないでください。

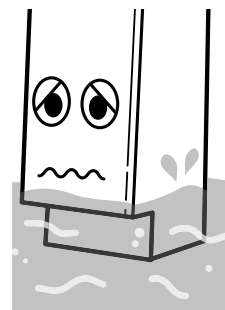
凍結破損による

- ・やけど、感電のおそれがあります。
- ・性能低下、機器故障の原因になります。



### ▲注意

冠水するところに設置されていないか確認してください。冠水すると、漏電や感電のおそれがあります。

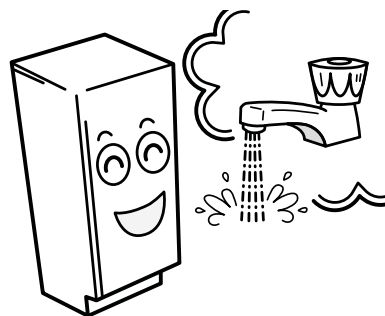


## 【17】 使用水源の確認

### ▲注意

水道水を使用しているか確認してください。  
(温泉水・井戸水は使用不可)

水道水を使用しないと、故障や水漏れの原因になります。  
また水道水であっても、塩分・石灰分その他不純物が多く含まれていたり、酸性水質の地域では使用をお避けください。  
配管や水路のつまり、腐食等により不具合の原因になります。





# しくみ

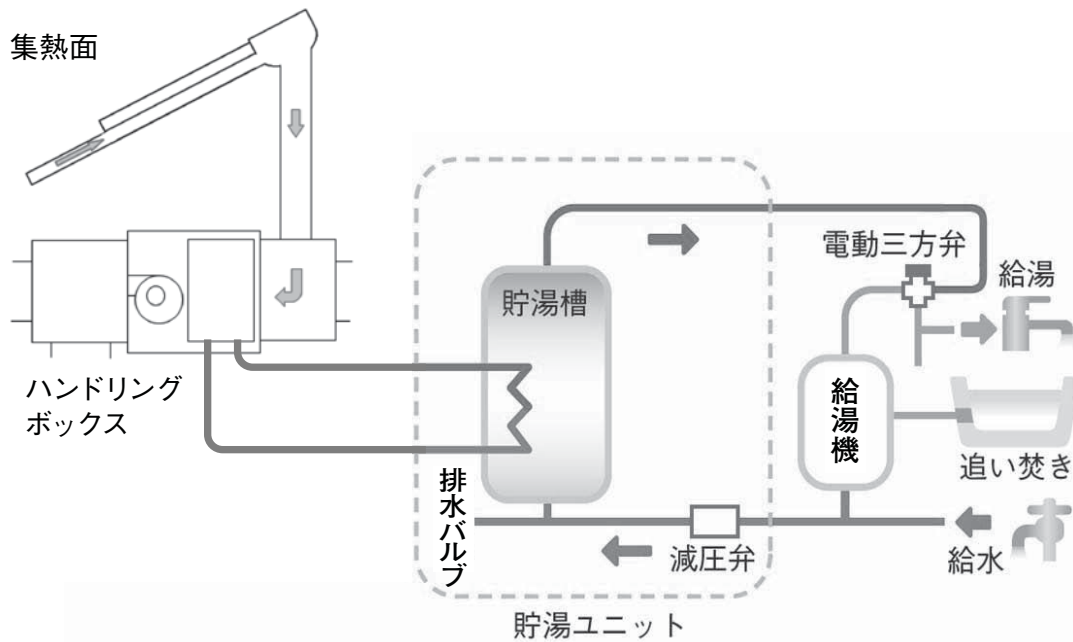
## ■太陽熱を集熱して、お湯を作ります

\* OMソーラーの集熱面で太陽熱を吸収し、集熱空気はハンドリングボックスに送られ、ハンドリングボックス内のコイルにて循環する熱媒（不凍液）を温めます。温められた熱媒は貯湯槽に送られ、貯湯槽内の水を温めて貯えます。

\* 集熱は、自動的に行います。

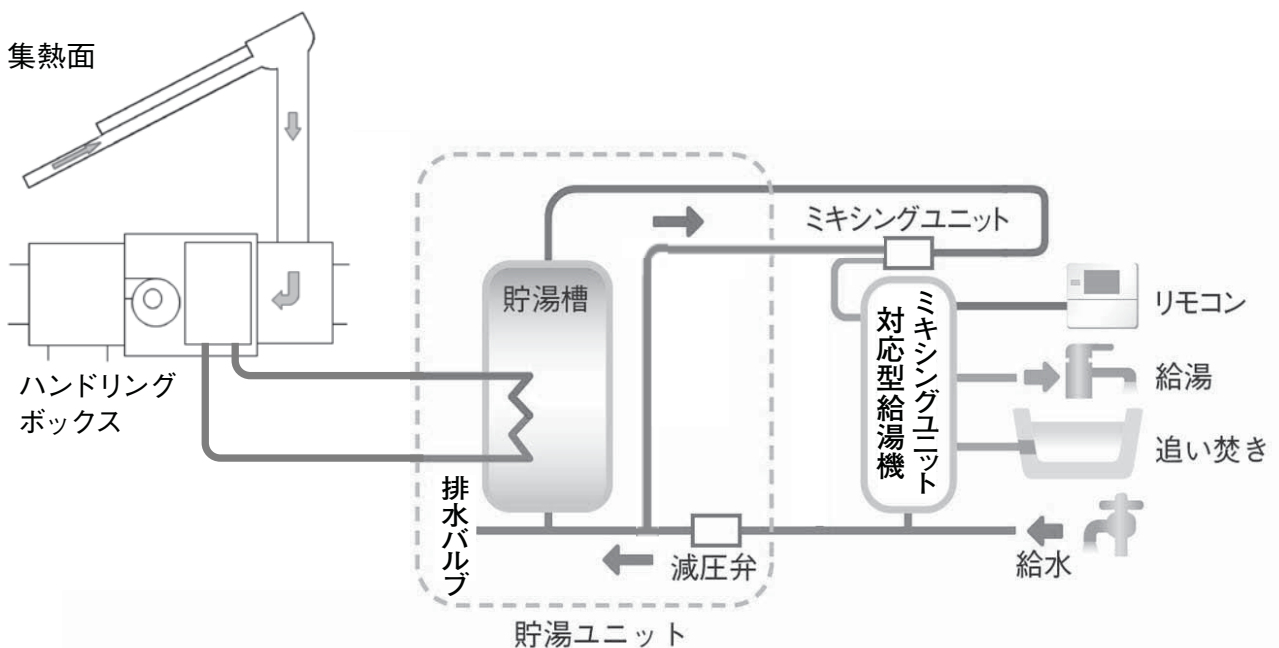
\* 貯湯槽に貯えたお湯は、給湯やお風呂のお湯はりに使用します。

## ■電動三方弁ご使用の場合



注) 雨天、曇天の日は集熱しません。補助熱源機（給湯機）をご利用願います。

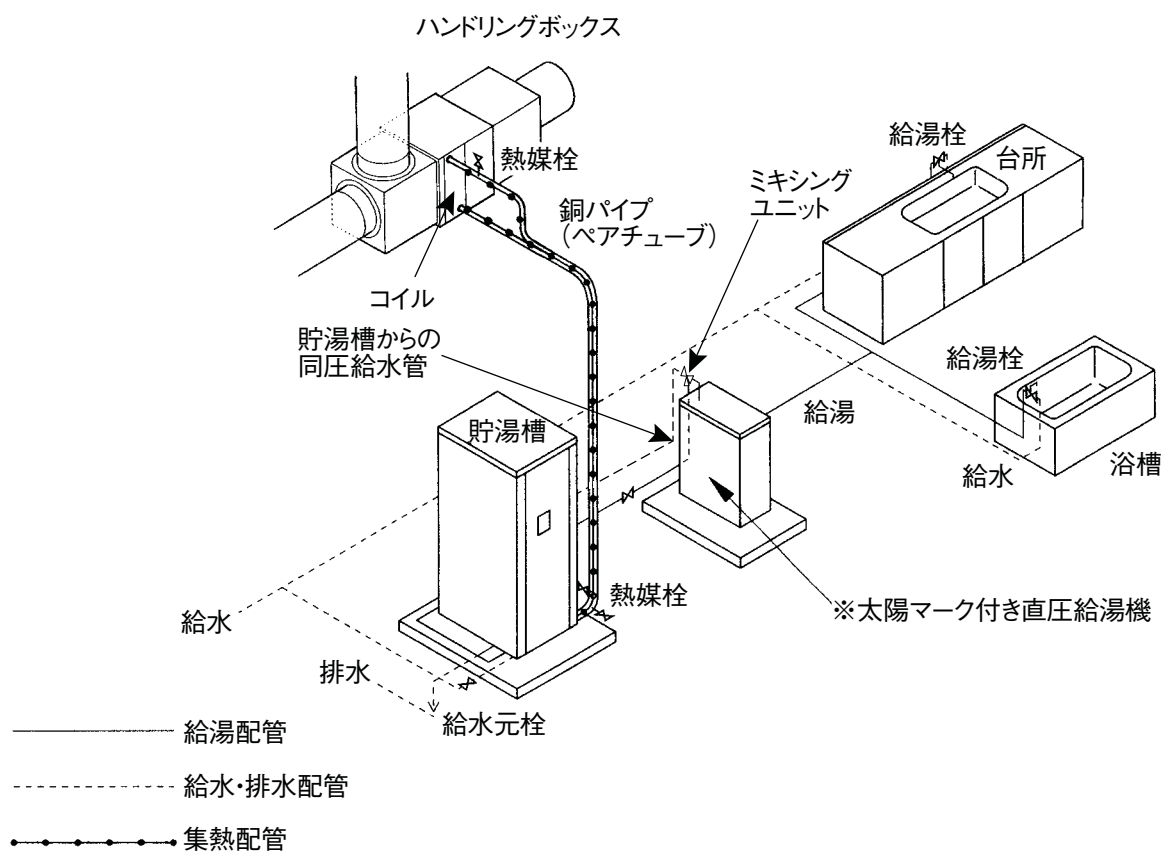
## ■ミキシングユニットご使用の場合



注) 雨天、曇天の日は集熱しません。補助熱源機（給湯機）をご利用願います。

# 機器の構成

(例) 「OM 貯湯槽」 と直圧給湯機を使ったシステム

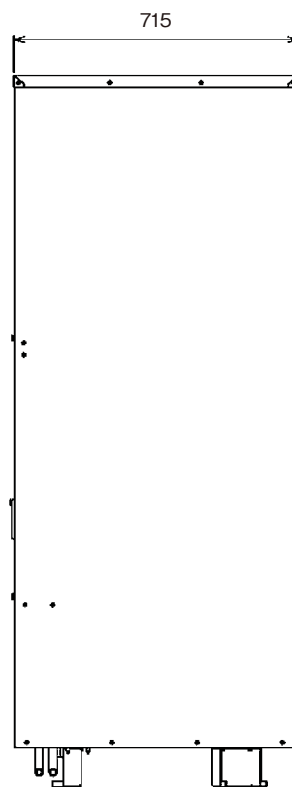
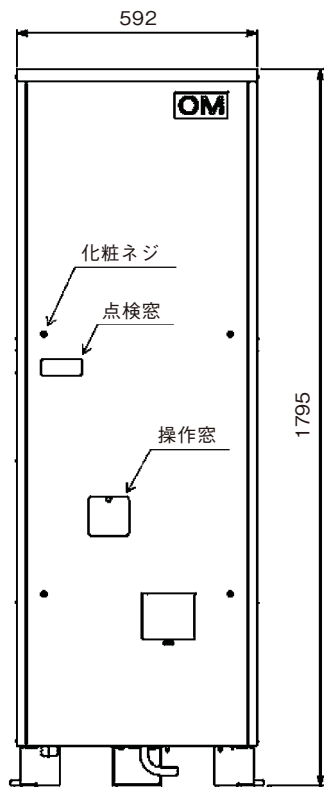
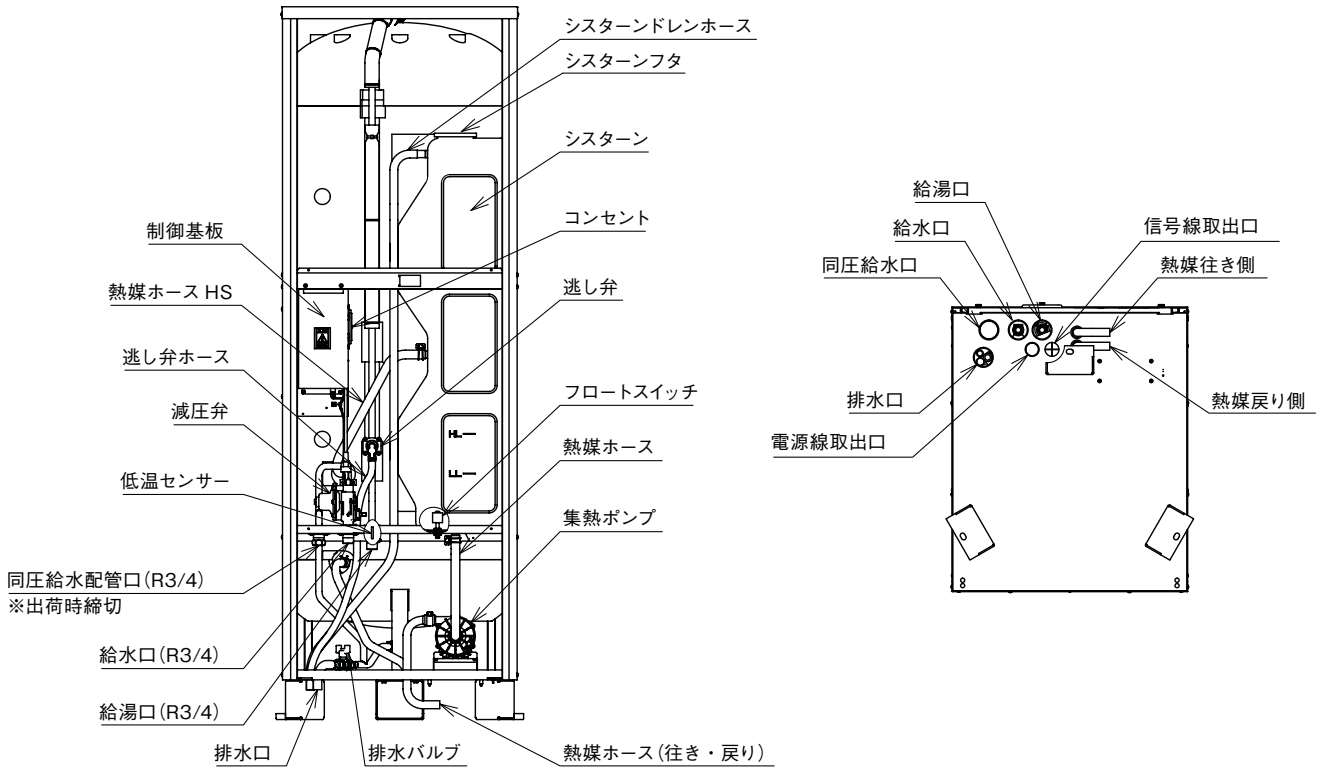


※直圧給湯機とは、ソーラー対応型または、太陽熱接続ユニットに対応した給湯機を言います。詳しくは給湯機の取扱説明書をご覧ください。

## 本機の機能

- 本機はハンドリングボックスのコイルに接続し熱媒水の循環により貯湯する機器です。
- 一般的には、直圧給湯機と組み合わせた給湯システムに使用されます。

# 各部の名称



# ご使用方法

## 警告

- 給湯やシャワーを使用するときや、入浴するときは必ず手で湯加減を確かめてください。
- 使用する補助熱源機（ソーラーまたは給湯機など）を確認してから使用してください。使用中（特にシャワー使用時）は補助熱源機の切り替えをしないでください。突然熱湯（60℃を超える湯）が出てやけどをしたり、冷水が出てびっくりすることがあります。

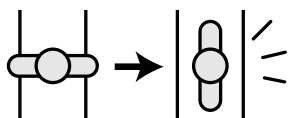
## 注意

- 飲用される場合は、必ず一度やかんなどで沸騰させてから飲用してください。
- 熱いお湯が出てくるまでの水（配管内にたまった水）は雑用水としてお使いください。
- 固形物や変色・にごり・悪臭などがあった場合は、ただちに点検の依頼を行ってください。

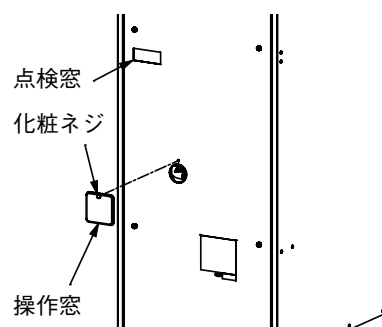
## はじめてお使いになるとき

はじめてお使いになるときは、次の準備と確認を行います。

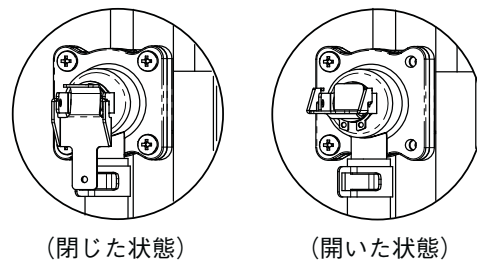
- ①給水元栓を開けます。



- ②操作窓を取り外し、逃し弁のレバーを開いた状態にします。



- ③満水になったら、逃し弁のレバーを閉じた状態にし、操作窓を取り付けます。



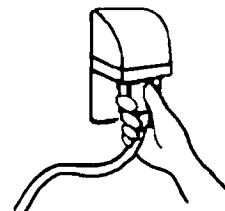
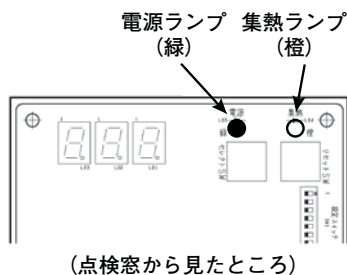
- ④給湯栓を開けて水が出ることを確認し、きれいな水が出るまで（300L程度）捨てます。

- ⑤きれいな水が出たら給湯栓を閉じます。



- ⑥電源プラグをコンセントに接続します。

- ⑦点検窓から電源ランプ（緑色）が点灯することを確認します。



※電源ランプが点灯すれば運転は自動的に行われます。

また、集熱運転している時は、集熱ランプ（橙色）が点灯します。

※電源ランプが点灯しない場合やエラー表示が出た場合、P16を参照し原因を確かめてください。

# 凍結予防について

冬期は温かい地域でも、給水・給湯配管内の水が凍結し、破損事故が起こることがあります。販売店へ相談し、適切な凍結防止対策をしてください。

## 方法1：凍結防止ヒータによる方法

凍結の可能性がある期間は、給水・給湯配管の全ての凍結防止ヒータの電源プラグをコンセントに差し込み、貯湯槽の電源は「OFF」しないでください（電源プラグはコンセントに接続したままにする）。

それ以外の期間は、全ての凍結防止ヒータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

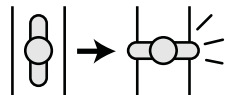
### ▲ 注意

凍結の恐れがあるときは電源を切らないでください。  
凍結すると機器が破損したり配管が破裂し、やけどや水漏れをすることがあります。

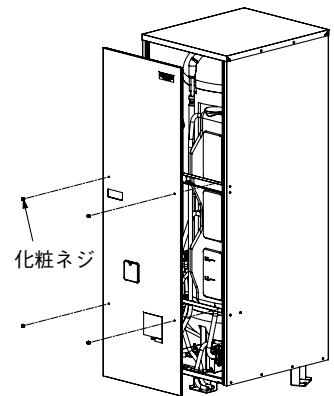
## 方法2：水を抜く方法

①電源プラグをコンセントから抜きます。

②給水元栓を閉じます。



③化粧ネジをゆるめて前板を外します。



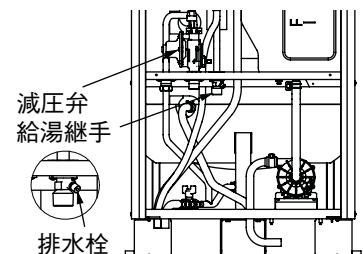
④逃し弁のレバーを開いた状態にし、弁を開けます。

⑤貯湯槽下部の排水バルブを開けて水を抜きます。

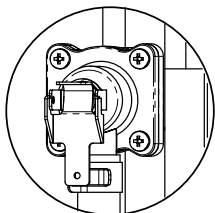
⑥減圧弁の突起を押してからストレーナーをプライヤー等で取り外し、水を抜きます。バケツ等で受けてください。

⑦給湯継手の排水栓を開けて水を抜きます。

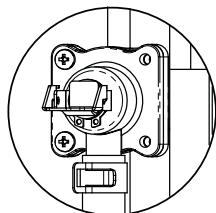
⑧水抜きが終わったら、排水バルブ、減圧弁、排水栓を元どおりに戻して、前板を取り付けてください。



### <逃し弁の操作>

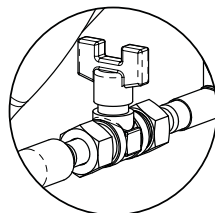


(閉じた状態)

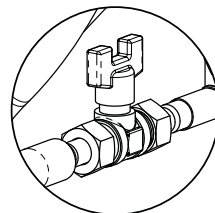


(開いた状態)

### <排水バルブの操作>

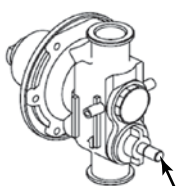


(閉じた状態)

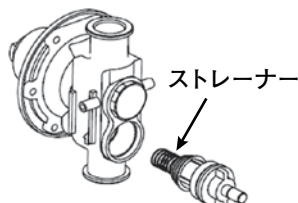


(開いた状態)

### <減圧弁の操作>



突起を押し込む



ストレーナー

※文中の部位については、P8「各部の名称」をご参照ください。

※再度ご使用になる時は、P9「はじめてお使いになるとき」と同様の手順でご使用ください。

# 長期間お湯を使用しないとき

## 1週間～1ヶ月使用しない場合

### ■凍結の可能性がない場合

本機はそのままの運転状態にしてください。

### ■凍結する可能性がある場合

「方法2：水を抜く方法」の手順で水抜きを行ってください。

※再度使用する場合は最初に300L程度の水を流してから使用してください。

## 1ヶ月以上使用しない場合

- 1) 「方法2：水を抜く方法」の手順で貯湯槽内の水抜きを行ってください。
- 2) 集熱回路（ハンドリングコイル、集熱配管）の熱媒も抜いてください。

※熱媒の抜き取り、再度使用する場合は、お買い上げの販売店、または巻末のお問い合わせ先にご連絡ください。

### ▲警告

熱媒の抜き取りは、お客様自身で行わないでください。  
炎症ややけどする恐れがあります。

# 断水したとき・停電したとき

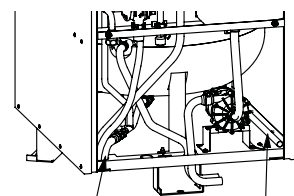
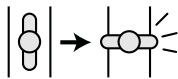
災害時の断水や停電した時は、貯湯タンクのお湯（水）を生活用水として利用できます。（飲用は避けてください）

### ▲警告

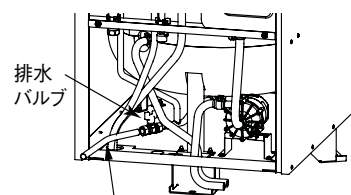
取水中はお湯（水）に触れないでください。  
熱湯が出たとき、やけどの恐れがあります。

## お湯（水）の取り出し方法

- ① 電源プラグをコンセントから抜きます。
  - ② 給水元栓を閉じます。
  - ③ 化粧ネジをゆるめて前板を外します。
  - ④ 排水ホースを取り外し、付属の非常用水抜きホースを取り付けます。
  - ⑤ 逃し弁のレバーを上げ、弁を開けます。
  - ⑥ 貯湯槽下部の排水バルブを開けてお湯（水）を出します。バケツ等で受けてください。
- ※再度ご使用になる時は、P9「はじめてお使いになるとき」と同様の手順でご使用ください。



排水ホース 非常用水抜きホース (付属)



排水バルブ  
非常用水抜きホース  
取り付け状態

## 日常の点検

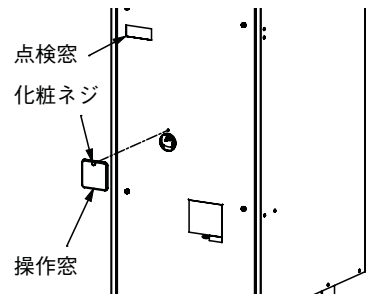
点検箇所	点検内容	処置
貯湯槽本体	エラー表示が出ていないか	販売店へ連絡
	異常音、異常振動の有無	
	水漏れの有無	
給水・給湯・集熱配管	水漏れの有無	
排水配管	ゴミの詰まり	ゴミを取り除く

# お手入れの方法

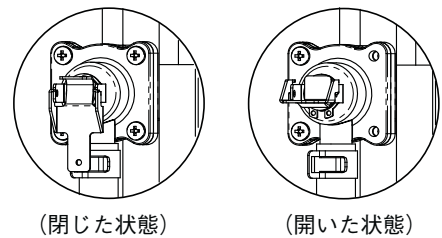
## 逃し弁の作動テスト（年に2～3回以上）

下記手順にて作動の確認を行ってください。

- ①化粧ネジをゆるめて操作窓を取り外します。
- ②逃し弁のレバーを開いた状態にし、本体下部の排水口から水（お湯）が出ることを確認します。
- ③逃し弁のレバーを閉じた状態にし、排水が止まることを確認します。
- ④操作窓を取り付けます。



<逃し弁の操作>



### 警告

排水口から出る水（お湯）に触れないでください。排水口から熱湯が出る恐れがあります。

### 注意

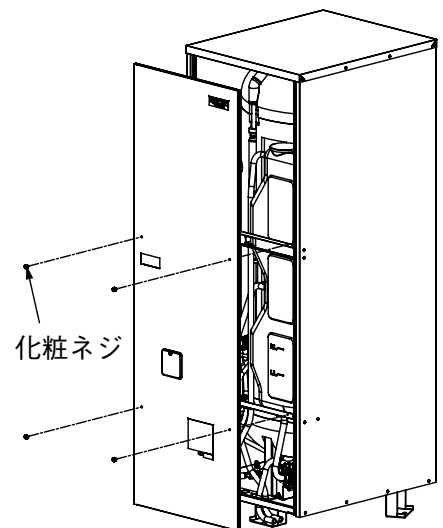
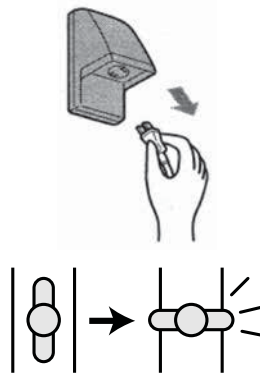
逃し弁は集熱時の水の膨張等により、貯湯槽の圧力が必要以上に上昇したとき圧力を逃がすためのものです。水垢等により正常に作動しなくなると圧力を逃がせなくなり、貯湯槽・配管の破裂や漏れの原因になることがあります。

## ストレーナー、貯湯槽の清掃（年に2～3回以上）

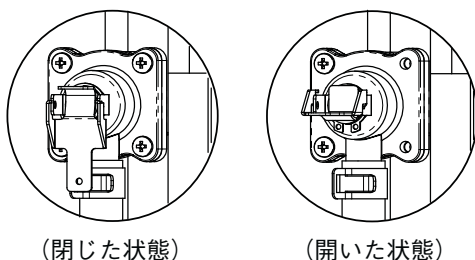
減圧弁の内部にはストレーナーが組み込まれていて、給水中のゴミ等を取り除く役目をしています。ストレーナーがゴミ等で詰まると、お湯の出が悪くなります。

その都度、下記手順にて清掃してください。

- ①電源プラグをコンセントから抜きます。
- ②給水元栓を閉じます。
- ③化粧ネジをゆるめて前板を外します。
- ④逃し弁のレバーを開いた状態にし、弁を開けます。



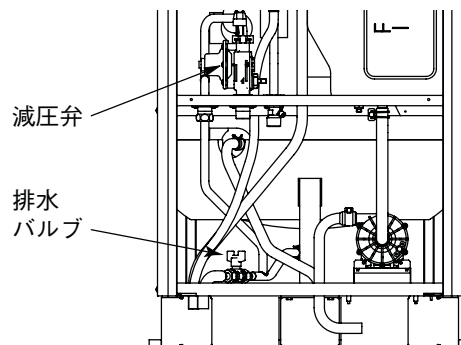
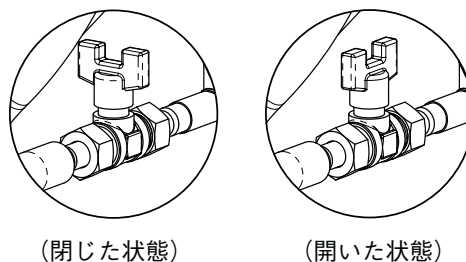
<逃し弁の操作>



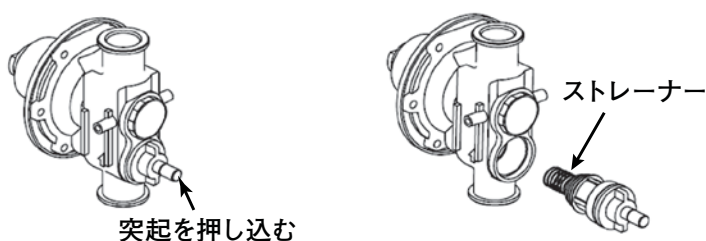


- ⑤ 貯湯槽下部の排水バルブを開けて水を抜きます。
- ⑥ 減圧弁の突起を押してからストレーナーをプライヤー等で取り外します。水が出ますので、バケツ等で受けてください。
- ⑦ 歯ブラシ等でストレーナーを水洗いし、ゴミや汚れを落とします。
- ⑧ ストレーナーを元通りに減圧弁に組込みます。
- ⑨ 排水バルブを閉じ、給水元栓を開けて水を入れます。
- ⑩ 満水になると逃し弁（排水口）から水が出ますので、逃し弁のレバーを閉じた状態にします。
- ⑪ 前板を取り付け、電源プラグをコンセントに差し込みます。

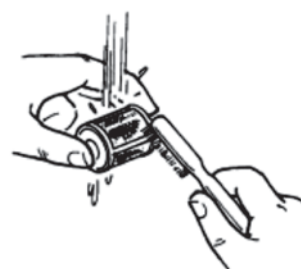
<排水バルブの操作>



<減圧弁の操作>



<ストレーナーの清掃>



## 熱媒（プロピレングリコール水溶液）交換

熱媒は集熱運転中に蒸発して減量することがあります。  
 また、熱媒は長期間使用すると劣化し、防錆効果が低下します。  
 7年に一度は全量交換をお買い求めの販売店へご依頼ください。

**注意**

- 1) 熱媒は弊社指定品を使用し、他社の熱媒とは混合しないでください。
- 2) 熱媒の廃棄は専門業者に処理してもらってください。

# 定期点検のおすすめ（有料）

## 定期点検

- 1) 安全にお使いいただくために、専門の技術者による定期的な点検（年1回程度）をお勧めします。詳しくはお買い上げの販売店または巻末のお問い合わせ先にご相談ください。点検の結果、部品交換が必要なものは、有料で交換になります。

項目	内容
据付状態	設置面、配管状態、配管その他の保温処理、電気配線などの確認
機能部品	電機部品（配線、導通、動作の確認）、弁類（逃し弁、減圧弁）などの点検
清掃	貯湯槽内の清掃（沈殿物の除去など）

- 2) 熱媒（プロピレングリコール水溶液）の交換
- ・熱媒は長期間使用すると劣化し、防錆効果が低下します。
  - 7年に一度は全量交換（有料）をお買い上げの販売店へご依頼ください。

## 定期交換部品・消耗部品

- 1) 定期交換部品

部品名	交換時期
熱媒	7年

- 2) 消耗部品

部品名
減圧弁
逃し弁
集熱ポンプ
フロートスイッチ
ゴムホース類
制御基板
温度センサー類

# 故障かなと思ったら

## エラー表示が出ていないときは

現象		原因	処置
給湯栓より水が出ない		断水している	通水を待ってください
		給水元栓が閉じている	給水元栓を開けてください
		凍結している	溶けるのを待ってください
水の出が悪い		給水圧が低い	販売店に相談してください
		ストレーナーが詰まっている	ストレーナーを清掃してください
		逃し弁から水が漏れている	販売店に連絡してください
お湯の温度が低い	本機が運転していない (電源ランプが点灯していない)	停電している	通電を待ってください
		電源プラグがコンセントから外れている	電源プラグをコンセントに差し込んでください
		ブレーカー(宅内)がOFFになっている	ブレーカーをONにしてください
	本機は運転している (電源ランプは点灯している)	天気が悪い日が続いている	晴れるのを待ってください
		集熱器の上に雪が積もっている	雪をおろしてください
		集熱器が陰になっている	販売店に連絡してください
		天気が良いのに集熱ポンプが運転しない	販売店に連絡してください
	使い方	お湯の使用量が多すぎる	お湯の使用量が減れば温まります

## エラー表示が出ているときは

エラーコード	原因
E01	熱媒が不足しています。
E02	集熱ポンプに関わる異常が生じています。
E04	高温センサーに関わる異常が生じています。
E05	低温センサーに関わる異常が生じています。
E06	低温センサーに関わる異常が生じています。

# 保証とアフターサービス

- 故障、修理については、お買い上げの販売店、または巻末のお問い合わせ先にご連絡ください。  
当社又は、当社指定の取扱販売店以外で点検、修理した場合の故障及び損傷は、保証期間内でも有料修理となります。工事説明書に記載されていない方法や指定部品を用いないで施工され、事故や故障が生じた場合は、責任を負いかねますので、必ず当社指定部品をご使用ください。

## 保証について

- 必ず、工事説明書に指定された工事を行ってください。記載内容を外れた設置が原因で生じた故障及び損傷は、保障期間内であっても補償の対象となりません。
- その他、保証期間内でも次の場合には有償となります。
  - 1) OMソーラー株式会社及び販売工務店以外による移動・修理・改造・分解などによる不具合
  - 2) 火災・地震・水害・落雷・雪害・風害・そのほかの天災地変、公害や異常電圧、凍結など一般と異なる状況による不具合及び破損
  - 3) 犬・猫・ねずみ・昆虫類などの動物の行為、植物の侵入などに起因する不具合
- 工事説明書による施工および取扱説明書による使用された場合にのみ、OM貯湯槽の缶体は過度な腐食・穴あきがないことを5年、その他部品または機能は正常な運転動作をすることを3年の保証年数とします。
- 当社の補修用部品の保有期間は、販売中止後10年とさせていただきます。  
※ここに示す保証年数は建物引渡し日より数える年数です。(交換の場合は竣工検査日)  
ただし、現場納品より建物引渡し日までが6ヶ月を越える場合は、超えた分の日数をここに示す保証年数より差し引いて数えることとします。

## 修理を依頼される時

本書のP16「故障かなと思ったら」にしたがって調べてもよくわからないときは、お買い上げの販売店、または巻末のお問い合わせ先にご連絡ください。

- 保証期間中であれば、保証書の規定に従って無料修理させていただきます。
- 保証期間がすぎている場合  
お買い上げの販売店、または巻末のお問い合わせ先にご相談ください。  
修理によって使用できる場合は、お客様のご要望により有料で修理いたします。
- 本機寿命は、ご使用の状況により大きく左右されます。
- 設置後20年程度を経過した本機については、安全の上からも更新をおすすめいたします。
- 本機のお取り外し、および廃棄処分にお困りな場合は、販売店または巻末のお問い合わせ先にご連絡ください。

# 仕様

項目		仕様
形式		EST-S30F-OM
種類		間接蓄熱・内部熱交換形、水道直結式・密閉形、補助熱源別置形
屋内屋外用の別		屋内・屋外用
タンク容量		300L
蓄熱媒体		水
外形寸法(高さ×幅×奥行)		1795 × 592 × 715mm
質量(満水時)		74kg (383kg)
電源		AC100V (50/60Hz)
定格消費電力(集熱時)		80W
主要構成部品	貯湯槽	ステンレス鋼
	集熱ポンプ	キャンド式うず巻形：DC ポンプ
	熱交換器	ステンレス鋼管
	断熱材	発泡ポリスチレン
	外装	塗装溶融亜鉛めっき鋼板(塗装色：ベージュ)
接続口	給湯口	20A (R3/4) オネジ
	給水口/同圧給水口	20A (R3/4) オネジ
	排水口	内径φ 14 ホース
最高使用圧力		450kPa (減圧弁：392kPa、逃し弁：450kPa)
制御	運転表示	運転表示(運転ランプ、集熱ランプ) データ表示(温度、ポンプ回転数、異常、運転履歴)
	異常表示	データ表示(エラーコード)
	集熱制御	差温サーモスタット + 外部運転信号
	外部出力	集熱中出力、異常出力
	その他	セレクトスイッチ、リセットスイッチ
保護機能・装置		逆流防止、負圧破壊防止、熱媒減少検知、貯湯槽高温時運転停止
設置可能最低外気温度		-15℃
日水協認証登録番号		A-388

MEMO

Lined writing area consisting of 25 horizontal dotted lines for text entry.



お問い合わせ先

**OM ソーラー株式会社**

〒431-1207 静岡県浜松市西区村櫛町 4601

TEL053(488)1700(代)  
<http://omsolar.jp/>

7NAA-M1808000  
2016.08